



## 2. 指標設定

成果指標	指標名	市民の安全安心の確保		目標年度	指標の設定理由				
	数値	-			市民の安全安心の確保が必要であるため				
活動指標	指標	a	救急出動件数	b	教育研修参加数	c	救急講習受講人数	d	実働救命士必要数
	数値	目標	-	目標	-	目標	2,000人/年	目標	16人

## 3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H25	H26	H27
市民の安全安心の確保		-	-	-
		-	-	-

活動指標名	単位	H25	H26	H27
a 救急出動件数	件	2,111 件	2,102 件	2,137 件
b 教育研修参加数	人	24 人	29 人	24 人
c 救急講習受講人数	人	1,571 人	1,476 人	1,630 人
d 実働救命士必要数	人	78.6 %	73.8 %	81.5 %
		13 人	14 人	16 人
		81.3 %	93.8 %	100.0 %

## 4. 課題と対応

課題
救命率向上のため市民と連携した救命体制の確立を図るとともに、救命士の処置拡大が実施され、高度化する救急救命活動の対応をするため、救急救命士の常時2名乗車を目標に実働救命士のさらなる養成が必要である。
対応（改善点等）
救命講習の実施により応急手当の普及促進を図るとともに、実働救命士の計画的な養成に努める。また、救急車の適正利用の普及・啓発活動を行う。

## 5. 事業費・・・H25～H27（決算額）、H28（予算現額）

決算額（千円）		H25	H26	H27	H28
		99,399	140,447	81,175	110,225
うち経常経費		48,382	52,750	53,787	54,952
財源内訳	国 県 費	1,435	216	198	164
	市 債	46,600	84,600	23,400	50,700
	そ の 他	834	1,545	555	327
	一般財源	50,530	54,086	57,022	59,034
	うち経常	47,400	51,933	53,034	54,461

## 6. H29年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
市民の安全安心を確保維持するために必要な予算であるが、施設・資機材等の維持管理については、計画的に実施し経費の削減に努める。

## 7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 市民の安全安心を確保・維持するため必要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 市民の安全安心を守ることは市の責務である。
③ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 市民の安全安心を構築するために目的達成が必要である。
④ 事業の有効性	成果指標の判断	3 必要不可欠な事業と判断できる。

## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	経費の削減と効果的な事業実施を図りつつ、目的の達成に努めること。



## 2. 指標設定

成果指標	指標名	市民の安全安心の確保		目標年度	指標の設定理由			
	数値	-		-	市民の安全安心の確保が必要であるため			
活動指標	指標	a	団員数	b	訓練回数	c	災害出動数	d
	数値	目標	1,321人	目標	6回	目標	-	目標

## 3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H25	H26	H27
市民の安全安心の確保		-	-	-
		-	-	-

活動指標名	単位	H25	H26	H27
a 団員数	人	1,276 人	1,259 人	1,260 人
		96.6 %	95.3 %	95.3 %
b 訓練回数	回	6 回	6 回	6 回
		100.0 %	100.0 %	100.0 %
c 災害出動数	回	34 回	48 回	14 回
		-	-	-
d				

## 4. 課題と対応

課題
過疎化や団員のサラリーマン化により、活動できる団員が減少しており、地域の実情を考慮した組織の見直しが必要である。
対応（改善点等）
各種訓練を重ね、団員の技能、知識のレベルアップを図り、地域防災力の向上を目指すとともに、社会情勢に即した消防団組織再編を進める。

## 5. 事業費・・・H25～H27（決算額）、H28（予算現額）

決算額（千円）		H25	H26	H27	H28
		93,720	97,928	89,825	100,551
うち経常経費		93,166	97,928	88,729	99,425
財源内訳	国 県 費				
	市 債				
	そ の 他	375		62	3
	一般財源	93,345	97,928	89,763	100,548
うち経常		93,166	97,928	88,667	99,425

## 6. H29年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
災害等に対応するため、消防団の技術と知識のレベルアップを目指し、地域防災力の向上を継続的に図るため。

## 7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 市の責務である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 市が担う事業である。
③ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 災害時の迅速な対応を目的としており、妥当である。
④ 事業の有効性	成果指標の判断	3 市民の生命、財産を守る責務がある。

## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
見直し	組織再編に向け、検討を行うこと。



## 2. 指標設定

成果指標	指標名	市民の安全安心の確保	目標年度	—	指標の設定理由			
	数値	—			市民の安全安心の確保が必要であるため			
活動指標	指標	a	施設整備数	b	車両整備数	c		d
	数値	目標	—	目標	—	目標		目標

## 3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H25	H26	H27
市民の安全安心の確保		—	—	—
		—	—	—

活動指標名	単位	H25	H26	H27
a 施設整備数	ヶ所	13 ヶ所	15 ヶ所	17 ヶ所
		—	—	—
b 車両整備数	台	2 台	2 台	2 台
		—	—	—
c				
d				

## 4. 課題と対応

課題
消防施設設備の充実。
対応（改善点等）
補助金を有効に活用し、緊急性及び優先度の高いものから整備を行い、地域消防力の向上を図る。

## 5. 事業費・・・H25～H27（決算額）、H28（予算現額）

決算額（千円）	H25	H26	H27	H28	
	うち経常経費	49,785	36,467	22,627	64,044
	11,448	1,844	3,522	2,950	
財源内訳	国 県 費	17,581	9,582	4,355	21,186
	市 債	8,900	5,100		5,100
	そ の 他	4,056	81		4,788
	一般財源	19,248	21,704	18,272	32,970
	うち経常	11,448	1,844	3,522	2,950

## 6. H29年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
施設整備等の更新が必要のため。

## 7. 担当課による分析

	着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	改善要望により実施する。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	市の果たすべき事業である。
③ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	市の果たすべき責務である。
④ 事業の有効性	成果指標の判断	3	災害対応の強化が保たれる。

## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き、限られた予算の中で効果的に実施すること。